

2024年2月11日(日)
ぶち楽しいバードウォッチング⑪
「あいタカった！タカ探し」

この日観察できた猛禽類はミサゴとトビとハイイロチュウヒの3種。
種数は少なかったですが、強風のおかげで海での狩りを諦めた？ミサゴが
より風の影響が少ない園内の水域で魚を探していたため
しっかり観察することができました。その様子をご覧ください。



猛禽類の剥製を
多数用意。
間近で見ると
鋭い爪や
クチバシ
精悍な顔つきに
皆さん感心され
ていました。

野外観察開始直後、参加者が「何か飛んでますよ！」と猛禽類を発見！
ずっと遠く干拓地の方に、なんとかハイイロチュウヒと分かる程度でしたが
まずは1種類目を確認することができました。

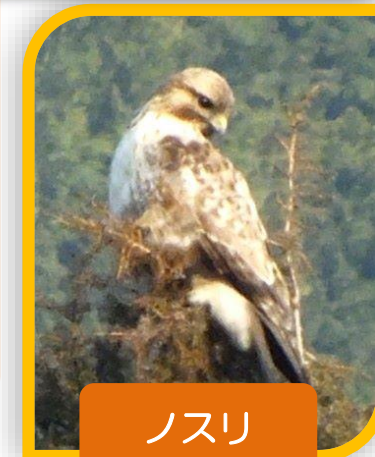


ハイイロチュウヒ雌



オオタカ幼鳥

オオバンの羽が散乱して
いました。オオタカが襲っ
たのかもしれませんが。
ピオトープでニホンアカ
ガエルの卵を観察しまし
た。ノスリはカエルも良く
食べます。この2種は観察
できませんでしたが、彼ら
の存在を連想することは
できました。



ノスリ

「猛禽類が居る」ということは、生態系ピラミッドの頂点の生き物が居るということで
その頂点の生き物たちを支える多くの生き物が存在するということになります。
つまり、さらら浜周辺には多様な環境があり、多様な生物相がある証ということが言えます。
さらに、猛禽類の種類が多いということは、豊かな自然環境があるということでもあります。
猛禽類観察を通して、そんなことを感じてもらえたら幸いです。



今回
何度も観察できた
ミサゴとトビ。



ミサゴ



トビ

